



絆プロジェクト

～ 日常実践の充実を目指した教育活動へのチャレンジ ～

環境

ICT

体力向上

国際理解

キャリア

平成 28 年 12 月 23 日発行
No.18 文責 小林

キャリア

こだわりの土づくりを支える 食と人とのつながり

12月15日、斉藤農場の斉藤さんを講師にお迎えし、こだわりの土づくりについてお話をさせていただきました。

斉藤さんにご協力いただくのは、今回で2回目…。豊成小学校のキャリア教育の趣旨をご理解いただき、「子どもたちに十勝の農業の素晴らしさを伝えることも自分達の役割の1つです。」と、お忙しい中、快くご協力頂いている心強い理解者のお一人です。事前の打ち合わせでも「メモはできるだけとらず、話を聴くことに集中して欲しい。」と『子どもたちに伝えたい!』という熱い思いを率直にぶつけて下さるほど、真剣に準備をしておりました。そんな思いに応えるべく、6年生は素晴らしい態度で斉藤さんの話に聴き入っていました。

今回の講義では、「土づくりへのこだわりはもちろん、よい土をつくるには、暗渠（あんきょ）が必要。その暗渠は、土木関係業者の力を借りなければ設置できないので、農業は、自分1人では成り立たない。たくさんの人に支えられながら、私は、農業をしているんです。」と、人とのかかわりやつながりの大切さを教えて下さいました。

また、斉藤さんのこだわりの土づくりのお話の中で、子どもたちが作っているザリガニ堆肥の有効性についてもふれて頂き、子どもたちが行っている駆除活動が「命を奪う活動」ではなく、「命を守り、命をつなげる活動」であることを教えて下さったことで、子どもたちの気持ちの整理の手助けにもなったようでした。

最後には「十勝の生まれたことを誇りに思い、十勝の素晴らしさを発信できる大人になって欲しい。」と、熱いメッセージを送って頂きました。話を聴いた子どもたちは、話の内容はもちろん、斉藤さんの仕事への情熱や姿勢、また、滲み出る「やる気」や「自信」にも圧倒されたようで、働く大人のカッコよさを感じていました。



十勝の生産力を支えているのは農家だけではなく、多くの方が携わっていることが心に残っています。食や農業に限らず、全てはつながっている。人と人とのつながりを大切に、世の中の役に立つ仕事の素晴らしさを知って欲しいという言葉がとても心に響きました。（1組 男子）

斉藤さんは、農家という職業に就き、ただ働くだけではなく、そこから、さらにおいしくするには・・・と勉強されていてすごいなと思いました。私も夢をみるだけではなく、それになるにはどうすればよいかを勉強していきたいと思いました。（1組 女子）

斉藤さんの話の中で、ここに生まれたことを誇りに思っていて欲しいという言葉に感激しました。斉藤さんが言っていたように、ぼくも人と人とのつながりを大切にしたり、食を大切にしたりしながら勉強をして、誇りがもてる仕事、自分にあった仕事に就きたいです。（2組 男子）

いつも身近にあった土が、こんなにも役に立つんだとわかりました。ぼくは、食は体の健康にも心の健康にもよいので、食を疎かにしないことをこれからの自分の生活につなげていきたいです。土づくりのお話を聞かせていただき、ありがとうございました。（2組 男子）